

高度先進医療を目指す教育・臨床・ 研究のできる東邦人の育成

Be a Creative, Competitive and Cooperative Surgeon

外科学講座 心臓血管外科学分野 (大森)

教授：渡邊善則
准教授：塩野則次
准教授：小澤 司
准教授：藤井毅郎
講師：益原大志 (医局長)

講座沿革

東邦大学外科学講座は、1925(大正14)年に創立された帝國女子医学専門学校(現東邦大学)の、初代外科学教授大槻正路先生に始まります。本格的な心臓血管外科の診療および研究は、1959(昭和34)年6月外科学第1講座に亀谷壽彦先生が助教授として赴任された時が始まりと言えます。亀谷壽彦先生のご指導の下、外科学第1講座に小児外科グループが新設され、教育・研究・臨床の多岐にわたり隆盛を極めました。小児心臓外科の本格的な立ち上げのため、高梨吉則先生を1985(昭和60)年9月に東京女子医科大学より非常勤講師として迎え、翌1986(昭和61)年3月に助教授として赴任されることとなり、先天性心疾患手術は年間80例を超えるまでに至りました。1987(昭和62)年1月1日に亀谷教授が享年64で他界され、同年4月に小松 壽先生を主任教授とする、心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科を統合した胸部心臓血管外科学講座が分離独立しました。高梨吉則先生は1993(平成5)年5月に教授に昇任されましたが、1994(平成6)年10月に東京女子医科大学教授に選任され、本学を退任されました。以後、先天性心疾患の治療は吉原克則先生に引き継がれました。1995(平成7)年小松壽先生が退任され、呼吸器外科の山崎史朗先生が主任教授



心臓大血管・血管内治療班

後列左より 矢尾尊英, 片柳智之, 大熊新之介, 亀田 徹。
前列左より 益原大志, 塩野則次, 渡邊善則, 藤井毅郎。



先天性心疾患班

左より 小澤 司, 渡邊善則, 片山雄三.

となり、心臓血管外科は小山信彌先生が教授として統括することとなりました。東邦大学医療センター大森病院は2001（平成13）年4月に臓器別の診療再編成が実施され、臨床については循環器センター心臓血管外科として活動することとなりました。2002（平成14）年4月には医学部の講座再編が実施され、呼吸器外科と分離し心臓血管外科学講座となり、2003（平成15）年6月には医学部の組織改正があり、外科学講座心臓血管外科となりました。2010（平成22）年12月に東邦大学医療センター大森病院に大動脈センターが新設され渡邊善則が診療責任者に就任し、2011（平成23）年8月に大動脈センター教授に昇任しました。2013（平成25）年3月に主任教授の小山信彌先生が退任され、同年4月より渡邊善則が外科学講座心臓血管外科学分野主任教授となり、循環器センター心臓血管外科、大動脈センターおよび小児医療センター小児心臓血管外科を統括しています。

心臓血管外科学は近年急速に発展した分野で、外科学の中ではその歴史は浅く、東邦大学では外科学第1講座の中で始まり、幾多の組織改編を繰り返し現在に至っています。

近 況

教育面では、卒後教育を従来の“背中を見せ学ばせる型”から、“積極的育成型”に転換し、卒後研修プログラムの確実な実施で多くの専門医が育成され、次々に学位も取得しています。また、東邦大学の将来を担う人材育成には卒前教育が肝要であるため、臨床や研究で多忙な医局員に“大

学人であること”を求め、卒前教育を怠ることのないよう指導しています。

研究面では、人工血管感染のメカニズムに関する基礎的研究、多系統動脈硬化性疾患における虚血性心疾患の研究、左室縮小手術後遠隔期の心機能の研究、生体弁置換術後遠隔期血行動態および心機能の研究、pulse wave transit time (PWTT) による小児循環動態の評価法の開発研究、先天性心疾患に対する right ventricle-pulmonary artery (RV-PA) 再建法の研究、先天性心疾患における低形成大動脈の再建方法の研究など、多くの研究が行われています。

臨床面では、われわれの扱う疾患は新生児から高齢者まで幅広く疾患も多岐にわたり、手術症例数も年間300症例に及び、藤井毅郎准教授を班長とする心臓大血管班、小澤司准教授を班長とする先天性心疾患班、益原大志講師を班長とする血管内治療班に分け、相互連携を取りつつ高度先進医療に努めています。

外科志望の医師が激減するなか、2013（平成25）年より“Academic surgeon”の積極的育成を目指した大幅な構造改革を断行しました。2017（平成29）年には次代を担うレジデントが6名にまで至る予定で、教育・研究・臨床全てにおいて活気のある医局に成長しています。

2019（平成31）年6月には、心臓血管外科開設60周年を迎えます。

（渡邊善則）

DOI: 10.14994/tohoigaku.2016.r047